特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金
事業報告　第 12 号（2015・2016 年度）

★　地震後の村の学校再建状況

2015 年 4 月 25 日に発生した地震から既に 2 年が経ちました。ネパール全体での復興は 10%程度しか進んでいないと言われています。ネパール政府は被災した世帯に対し、昨年 4 月より住宅再建の補助金給付を始めましたが、審査を通って耐震基準に適合した家を再建した者がいる一方で、給付対象にならず現在も仮設住居やテント、ヒビ割れた住居に暮らす者も多くいます。サッレ村も同様の状態で、住民間の生活に差が生じてきています。

学校については､ネパールでは 100 万人近い生徒が学ぶ場を失い､多くが今も仮設教室やテントで学習しています。ネパール政府の試算では、教育分野の総復興額は 397 億ネパールルピー（約 440 億円）です。

一方、バル・ピパル学校では少しずつ再建が進んでいます。学生達は、前回ご報告の 12 教室（3 棟）の仮設校舎で今も学んでいますが、皆様のご寄付金でガレキの撤去、被災した教室や劣化した仮設校舎の修復、備品の修理等が行われました。昨年 3 月にはトイレ 1 棟、10 月には 1 教室（1 棟）が再建され、今年 8 月には 2 教室（1 棟）の完成も間近です。ご支援を誠にありがとうございました。

あと 8 教室とトイレ 1 棟の再建が必要です。また、ネパール政府支援の別の 4 教室の再建については何も進展がありませんが、これからも、引き続き前進して行こうと考えています。

※学校再建の詳細につきましては、4 ページ「(7) 学校運営支援事業②･･･学校再建支援」をご参照下さい。

図書館の前で遊ぶ子供達

仮設教室で学習中の子供達

【 1 】パル・ピパル学校 第 6・7 回目の全国統一試験（SEE）結果

ネパール政府の方針により、全国統一試験（School Leaving Certificate）の名称と評価方法が 2016 年から変わりました。これまでの点数と合否だけの評価法では、試験結果により進学を断念したり就職に影響する学生が半分以上も出る問題がありました。新方式は Secondary Education Examination（中等教育試験）という名称で、合否の判定はなくなり、米国の大学で一般的に行われる成績評価法 GPA（Grade Point Average／成績評価値）が採用されています。GPA の満点は 4（Grade は A+）になります。10 年生卒業後に受験するという条件や試験内容等の他の要項は従来通りです。

3 月の全国統一試験（SEE）では、2016 年に 437,326 名、2017 年に 462,136 名受験しました。バル・ピパル学校の生徒達は、2016 年に 31 名、2017 年に 27 名受験し、結果は表 1 の通りでした。

全国の成績結果では、2016・2017 年の「Grade A+」は上位 3.8%・2.3%、「Grade A」は上位 9.5%・9.2%でした。ネパール国内の公立・私立、都市部・地方問わず全ての学校出身の学生達が受験したことも考えると、地方のバル・ピパル学校の卒業生の受験結果（Grade A が 2016・2017 年に 2 名・1 名）は、優秀であることが判ります。

表 1　全国統一試験(SEE)結果

GPA	3.6-4.0	3.2-3.6	2.8-3.2	2.4-2.8	2.0-2.4	1.6-2.0	1.2-1.6	0.8-1.2	0-0.8	合計
得点	90-100	80-89	70-79	60-69	50-59	40-49	30-39	20-29	0-19	
Grade	A+	A	B+	B	C+	C	D+	D	E	
2016	0	2	5	12	9	3	0	0	0	31 名
2017	0	1	3	15	8	0	0	0	0	27 名

【 2 】法人の支援事業

(1) 学用品支援事業･･･就学生へ文具品の寄与

教育環境を充実させるために学校に教材や遊具を寄与しています。毎年 5 月頃の学年開始時期に、年間に必要な文具品をバル・ピパル学校の全生徒に寄与しています。就学生 1 人に寄与する文具は鉛筆、消しゴム、ノート各種、ボールペン及び換芯、万年筆及びインク等です。2015 年度は 197 名、2016 年度は 169 名でした（表 2)。全体的に生徒数が減少しています。

表2 文具品を寄与したバル･ピパル学校就学生

年度	性別	学　年											計
		幼稚園児	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
2015	女子	4	4	6	5	9	8	9	11	22	15	16	109
	男子	9	3	4	7	5	9	2	6	16	12	15	88
	計	13	7	10	12	14	17	11	17	38	27	31	197
2016	女子	7	2	4	7	0	13	7	8	5	18	12	83
	男子	7	5	3	3	0	12	6	1	12	22	15	86
	計	14	7	7	10	0	25	13	9	17	40	27	169

(2) 奨学資金支援事業･･･奨学生の決定及び奨学金寄与

優秀な学生を育てるために学年で成績優秀な児童に文房具や学用品を寄与しています。2015 年度は 46 名、2016 年度は 58 名の優秀な学生に奨学金が寄与されました（表 3)。

物価上昇に伴い 15 年前に設定された支給金額と対象学校の見直しを行いました。これまではサッレ村周辺の村の 14 校で学ぶ計 100～200 名の学生に文具品を支給していましたが、2015 年度より一番近い 3 校に絞り、1 人当たりの金額を増やしました。また、学用品支援事業により既にほとんどの学生が必要な文具品を受け取っているため、文具品から奨学金の支給に変更されました。今後は資金が増えれば、再び対象校の数を増やしたいと思います。奨学金設定額は表 4・5 に示した通りです。なお、新たに SEE の奨学設定金額が設けられました。

この 3 つの学校には、現地法人のバル・ピパル奨学財団から招待状を送り、バル・ピパル学校にて奨学金と賞状の授与式が行われました。例年の通り村々から奨学生達、代表教師 1 人と父母がサッレ村に集まり、踊り等で祝いました。

表3 優秀な奨学生

年度	番号	村名	学校名	学年	順位	人数
2015	1	サッレ	バル･ピパル学校	幼稚園～2、4～9	各クラス1～4位	36
				5	全学年で1位	1
				SLC	1st divison	3
	2	ダダ	パンチャ･カンニャ学校	1～5	各クラス1位	5
	3	ボシ	シャンカ･デヴィ学校	SLC	ジャムルン行政区の1位	1
	合計					46
2016	1	サッレ	バル･ピパル学校	幼稚園～2、4～9	各クラス1～4位	36
				6	全学年で1位	1
				SEE	A	2
					B^+	5
	2	ダダ	パンチャ･カンニャ学校	1～5	各クラス1位	5
	3	ラマスタン	ラマスタン学校	1～9	各クラス1位	9
	合計					58

表4 奨学金の設定金額 （ルピー）

学年	1位	2位	3位	4位
幼稚園生	200	160	120	100
1～5	500	400	300	250
6～10	1,000	800	600	500
全学年	1,500			

1ルピー／約1.1円

表5 SLCとSEEの奨学設定金額 （ルピー）

対象	項目	金額
SLC	1stレベル(First Division:得点60%以上)	10,000
	ジャムルン行政区1位	11,000
SEE	A	10,000
	B^+	5,000

SLC: School Leaving Certificate　　1ルピー／約1.1円

SEE: Secondary Education Examination

奨学金を受け取る奨学生達

(3) 識字率向上支援事業･･･脱穀機導入の成果

住民全体の教育レベル向上のために夜間学校で学ぶ成人（特に女性）も奨学支援の対象としています。2004 年に夜間クラスで学ぶ成人の出席率向上のため、村に脱穀機を導入しました。当時の予算は 20～30 万円でしたが、年々成人達が読み書きを覚え夜間クラスを開講する必要がなくなり、予算も減らしてきました。現在、脱穀機施設の管理・修理等の運営がほぼ自立し、2015・2016 年度の決算も各 10,000 円のみです。

脱穀機の利用は母親達だけでなく、その手伝いをする児童達の家事労働の負担軽減にもなり、勉強時間の増加と学校出席率の向上等に役立っています。そのため、今後も多少の資金の支援が必要と考えられます。

(4) 書籍購入支援事業･･･書籍の購入

住民に国内外の情報や専門知識を提供するために絵本・技術書等を寄与しています。図書館の設立後、2014 年度まで予算を増やして書籍数を充実させてきたため、2015・2016 年度の購入は減り決算額が少なくなっています。学生達や村の住民にも自由に貸し出し、大変役に立っています。なお、新聞と雑誌はまだ揃えていません。

(5) 図書館設立支援事業･･･図書館の運営

住民が自由に教育に触れる機会を得られるように 10 年間積立を行い、2013 年に図書館を設立しました。

この図書館は耐震設計で建てられ、2015 年の地震の被害は受けませんでした。全半壊した教室・教員室・事務室が併用されています。現在約 3,900 冊の本が揃い非常に充実しています。貸出期間は 3 日です。

新聞や雑誌を置いていないため、大人達の利用は少ないですが、1～8 年生は図書館で本について学ぶ授業があり、活発に貸出が行われています。9～10 年生も個人で利用しています。

(6) 学校運営支援事業①･･･教職員の給与支援

教育レベル向上のために学校教師の雇用資金を援助しています。毎年の物価上昇に伴う教職員の給与の昇給が悩みの種で、この 8 年間で全国的に 1～5 年生担当の教員の給与も約 4 倍に上昇しています。さらに、担当する学年数が高いほど給与も高額になります（表 6）。

次ページ・表 7 の通り、バル・ピパル学校では合計 14 名の職員を雇用しています。この中で、ネパール政府から給与が支給される教員枠は 6 名、用務員・補助員は 2 名の計 8 名（表 7 の 1～8 番）です。対象になる教員は公的試験に合格した者です。

表6 物価上昇に伴う政府支給の基本給与の変化（全国）

対象学年 / 年度	月給 （ネパール･ルピー）		
	1-5年生	6-8年生	9-10年生
2008	6,280	-	-
2009	8,280	9,490	-
2010	9,900	10,560	13,450
2011･2012	13,650	14,480	18,790
2013	17,110	18,090	21,500
2014･2015	18,730	19,800	25,400
2016	23,170	24,500	31,500

1ルピー／約1.1円

この 8 名のうち 6 名は、政府が支給する給与額分より多くの学年を担当しているため、不足分は学校側が国からの補助金と日本のご寄付金で補っています。

政府支給のない残り 6 名分（表 7 の 9～14 番）は、全額を学校側が支給しています。政府支給額と比べると同等の昇給は不可能なため、経験年数等を考慮した金額設定にしていますが、教員からは昇給の要望があり難しい状況です。

なお、学校設立時からの校長先生が家族でカトマンズに移転したため、2016 年 9 月より新しい校長先生が就任しました。以前からバル・ピパル学校に勤務する Bikendra Narayan Shrestha 先生です。

Bikendra Narayan Shrestha

※表 7・学校教職員の月給内訳については、次年度の事業報告書で担当学年等の詳しい情報を掲載します。

6ー1：「サロン･ド･アサミ（Salon de Asami）」による教員の給与のご支援

「サロン･ド･アサミ」の皆様のご寄付により、1～5 学年の女性教員 Kalpana Gurung の給与を 2016 年 12 月まで 4 年間に渡り支援して頂きました。それ以外にも、教材や通学鞄の寄贈等、法人活動にご協力下さっています。

「サロン･ド･アサミ」は音楽や講演等、様々な文化活動を行う交流の場です。代表の石井智恵氏がサロンに募金箱を設置し、多方面でご寄付や地域活動も行っています。

2009 年からこれまでに、3 名の教員の給与等に合計 200 万円を超えるご支援を頂いた他、石井氏からも音楽教師雇用のために 6 年間で合計 300 万円のご寄付を頂いてきました。

学校運営の大きなご支援を、誠にありがとうございました。

表7 バル･ピパル学校の教職員の月給内訳（2017年1月）

番号	職員名	給料（ネパール･ルピー）		
		政府支給	補助･寄付金	合計
1	校長 Bikendra Narayan Shrestha	24,500	5,500	30,000
2	副校長 Thaneshor Bhatta	23,170	5,330	28,500
3	Rujuna Rijal	24,500	1,500	26,000
4	Chameli Thapa Magar	23,170	2,000	25,170
5	Man Bahadur Shrestha	23,170		23,170
6	幼稚園の教師 Sita Bogati	6,000	4,200	10,200
7	補助員 Devi Dalami Magar	11,500	500	12,000
8	用務員 Jhana Bahadur Bogati	7,500		7,500
9	Deepak Thapa Magar		24,000	24,000
10	Ganga Bahadur Kuwar		20,000	20,000
11	Kalpana Gurung		15,000	15,000
12	Kanchhi Maya Gurung		15,000	15,000
13	Kopila Gurung		8,000	8,000
14	Rabita Gurung		8,000	8,000

1ルピー／約1.1円

(7) 学校運営支援事業②･･･学校再建支援

2015 年の地震で被災した学校の再建や修復資金等を援助して、学校運営の継続を支援しています。

7ー1：「青葉ふれあいの会」のご支援金による仮設校舎の修復

2015 年 11 月に横浜にて、学校復興支援のために「青葉ふれあいの会（代表　栗木正壽氏）」主催で、ヴァイオリニスト鈴木健史氏とピアニスト鈴木弘子氏のチャリティー公演が開催されました。

その 1 ヶ月前に、公演資金を集めるため、クラウドファンディング（インターネット募金）を立ち上げて下さり、ご協力で集まった寄付金が目標額に達成し、開催が実現されました。そして 2016 年 1 月に、公演チケットの売上金から支援金を当法人へ贈呈して下さいました。

政府とユニセフ支援で建てられた竹製の仮設校舎はかなり劣化が進んでいたため、ユニセフが寄与してくれたトタンを使った修復が予定されていました。その修復費用の半分をご支援金で補うことができました。2016 年 2 月に、柱を木材に替え、屋根と壁をトタンで補強して大変きれいになりました。その後 2 度の雨期で再度傷んできていますが、持ち堪えて利用しています。会の皆様、公演にご協力頂いた皆様に心よりお礼申し上げます。

会では、横浜市青葉区とその周辺地域の人々の「共生」を目的とした社会貢献等の活動を行っています。

公演等の様子は会のブログ（https://plaza.rakuten.co.jp/aobafureai/diary/?ctgy=5）でご覧になれます。

※下記の一番左の写真は、ブログより転載させて頂きました。

1 月の支援金贈呈時　鈴木氏を囲んで

修復校舎前で行事を行う学生達

修復した校舎（手前右）

7ー2：クラウドファンディングでのご支援による校舎（1 教室）の再建

図書館と同じ鉄筋コンクリートの梁を入れた校舎を、まず 1 教室（1 棟）再建したいと、必要な費用 150 万円を目標金額として、2016 年 1 月に当法人の名義でクラウドファンディング（インターネット募金）を始めました。2 月には、再建活動にご賛同下さった東京都市大学教授の枝廣淳子先生が京都マラソンでチャリティーランを完走し、募金を呼び掛けて下さいました。またマラソン会場では、「京都中ロータリークラブ（当時会長　岡本靭彦氏）」のロータリアンの皆様と「華頂女子中学高等学校インターアクトクラブ」のメンバーの皆様が街頭募金を行って下さり、8,601 円が集まりました。2016 年 3 月末の終了時までに、クラウドファンディングでは 108 名様から 1,111,050 円が集まり、管理事務局への手数料 15.25%（169,466 円）を差引いた 941,584 円が当法人の口座へ振込まれました。

クラウドファンディングがきっかけで、募金期間中にこの活動と枝廣先生のチャリティーランの記事が読売新聞の横浜市版（2016 年 3/22 付）に掲載されました。記事をご覧になった 15 名の読者の方々からも合計 438,000 円の募金を頂き、おかげ様で最終的には総額 1,388,185 円となり目標額をほぼ達成しました。

設計は、リジャルのネパールの母校の学生や OB からなる団体「アシュラヤ」が行い、基礎と梁は鉄筋コンクリート、壁は現地調達できる石にしました。広さ約 34 ㎡の 1 階建て、45 名が収容でき、理科の実験やパソコンを学ぶ教室にしました。2016 年 5 月に建設が始まり、雨期で 7～9 月は中断しましたが、10 月 24 日に竣工式を迎えることができました。

右表の通り再建費用の残高が約 16 万円あり、今年になってからパソコン追加購入や修理に充てることができました。学生達は立派な教室で楽しく学んでいます。

ご支援・ご寄付をして下さった皆様に、もう一度、この場をお借りしてお礼申し上げます。

詳細は、下記の HP でご覧になれます。

＊ジャパンギビング（クラウドファンディング）
https://japangiving.jp/campaigns/3624#summary

＊イーズ未来共創フォーラム（枝廣先生が代表の会社）
http://www.es-inc.jp/insight/2017/ist_id008824.html

クラウドファンディング及びご寄付合計　1,388,185 円

送金時の換算：1円＝0.960ルピー	**1,332,899 Rs**

校舎再建費用明細

	項目	ネパールルピー
1	セメント (127袋)	111,465
2	砂（トラック11台分）	99,750
3	砂利	37,770
4	建設敷地の瓦礫撤去等工事費	28,100
5	釘、竹、大工道具（ノコギリ等）	2,975
6	石など運ぶカゴ	1,000
7	トタン	97,665
8	鉄板	4,480
9	屋根用釘、カギ	5,460
10	木板	48,830
11	紐	300
12	油	240
13	建物修復費 (一部やり直し)	16,100
14	白いセメント	2,000
15	電気関連品代	570
16	デザイン費	44,000
17	建設作業費（一括契約）	230,000
18	出入口ドア（2セット）	40,000
19	窓（4セット）	60,000
20	石材カット作業費	150,000
21	屋根の木材、梁	75,000
22	電線代、配線工事費	5,000
23	カーペット	13,000
24	塗料	13,000
25	鉄筋（250kg）	25,000
26	パソコンの購入費、修理費	65,700
支出合計（ネパール・ルピー）		**1,177,405**

残　高(ネパール・ルピー)	**155,494**

完走後、京都マラソン会場にて

完成した校舎

パソコン授業の様子

7－3：新聞報道による復興支援のご寄付

昨年 3 月の新聞記事によるご寄付の他にも、法人の学校再建活動について、読売新聞、神奈川新聞、タウンニュース都筑区版の 3 社様に記事を掲載して頂く機会がありました。

記事の掲載をきっかけに、再建活動にご賛同下さった 16 名の読者の方々から 2016 年 4 月 27 日～2017 年 6 月 12 日の期間に合計 1,275,000 円のご寄付がありました。このご寄付金は、学校復興資金として大切に使わせて頂きます。

また、2 名の方々より個別に教室再建資金のご援助のお話を頂き、2 教室（1 棟）の再建に必要な費用として合計 250 万をご寄付頂きました。この 2 教室は 2017 年 4 月から再建されることになりました。

さらに、1 名の方より学校運営資金として 30 万円のご支援があり、給食費用の資金にさせて頂くことになりました。

ご寄付下さいました皆様からの、温かいご支援に心より感謝申し上げます。

※上記の 2 教室再建ご支援については、次ページ「7－4：新聞読者様のご支援による校舎（2 教室）の再建」、
給食費用のご支援については、次ページ「7－5：新聞読者様のご支援による学校給食の再開」をご参照下さい。

7ー4：新聞読者様のご支援による校舎（2 教室）の再建

新聞記事を読まれた相模原市の歯科医師の奥村寛道氏と足柄下郡の女性の 2 名の方々より、2 教室（1 棟）の再建に必要な資金 250 万をご寄付頂き、この校舎の再建が 2017 年 4 月から始まりました。

当初は、費用はドア・窓・床を再利用、崩れた壁の再建で 60 万円の試算、また設計はクラウドファンディングのご支援校舎と同じ方式の計画でした。しかし、建設条件についてネパール政府が、JICA（日本国際協力機構）の方針「より良い復興」に基づいた耐震基準と規格モデルを採用し、一律の条件が定められました。その条件に適合しないと、建築許可は下りないようになりました。ガイドラインでは、規格の広さ約 42 ㎡の 1 階建て教室に建設費用 100 万ルピー（約 120 万円）が必要で、加えてその 5%の金額を建設認可料と政府から派遣される技術者の指導料として支払うことが条件になりました（本件は 2%になりました）。この規格モデルは地震で持ち堪えた JICA 支援の 2 教室と同じ規格です。安全な耐震校舎ですが最初の試算よりも見積額が増え、2 教室で 250 万円が必要となりました。

建設は、今年 8 月に完成予定です。詳細につきましては次回の事業報告書でお知らせ致します。

※クラウドファンディングで再建済み 1 教室の建築許可については、新しい耐震基準をほぼ満たしており、
また建設当時は政府の建設条件の周知が不徹底だったため、後付けで建築許可が下りました。

校舎の骨組み

屋根ができました

セメントで塗装しました

7ー5：新聞読者様のご支援による学校給食の再開

バル・ピパル学校の支援生徒数は、2015 年度に 197 名、2016 年度に 169 名でした（2 ページ・表 2）。全体的に 2011 年度から生徒数が減少しています。理由は、周辺の村でも学校が運営され始めた、仕事を求めて都市部に移転する世帯が増えた、2015 年の地震で自宅が倒壊し親の実家の村やカトマンズ等へ移転した、世帯当たりの子供数が減少した（計画出産・父親が出稼ぎ）等が考えられます。

生徒数が減ると、政府の補助金が減額されて学校運営が困難になる恐れがある他、一部の学年の閉鎖、他の村の学校との統合の可能性もあります。そうなると、再び以前のように遠い村まで通学しなくてはならない状況になります。

学校給食も生徒減少の理由の 1 つに考えられます。現地法人バル・ピパル奨学財団への給食費用のご支援が終了して資金不足となり、2015 年度からバル・ピパル学校の給食支給を中止していました。それも影響しているようです。また、給食が出ないと、一度自宅に帰って昼食をとる子、夕方まで何も食べない子、自宅からトウモロコシ等簡単な物しか持参しない子等がいました。遠い村から通学している児童もおり、保護者からも給食再開の要望がありました。

その状況の中、今回の新聞記事をご覧になった伊勢原市の梅原和美氏より、給食費用として 30 万円のご支援が決まりました。今年 5 月から 1 年間の予定で再開されています。

給食の再開で、次第に近隣の村から通学を始める生徒が出てくると予想され、生徒数増加に良い効果の可能性が期待されます。今後資金が集まれば、継続的して行きたいと考えています。

【　一週間の給食メニュー　】　日曜日：麺料理
月曜日と水曜日：チウラ（干した米）と豆料理
火曜日と木曜日：グルコース（栄養価の高いビスケット）

※ネパールでは、一般的に学校や会社は土曜日が休日です。金曜日は学校が半日で、給食は出ません。

7ー6：今後の学校再建の課題

必要な教室数は 17 教室です。地震により、17 教室（7 棟）のうち 15 教室（6 棟）が全半壊しました。コンクリート製の図書館と JICA 支援で建設の 2 教室（1 棟）は無事でした。15 教室の再建が必要となり、そのうちの 4 教室はネパール政府の援助を見込み、11 教室を自力で再建する計画を立てました。無事だった JICA 支援の 2 教室（1 棟）は 4 教室に分けて仮設教室にしました。

現在使用中なのは、仮設校舎 12 教室（3 棟）、教室・教員室・事務室は図書館と併用、再建した理科室 1 教室（1 棟）です。トイレも 1 棟が再建されました（8 ページ・【3】①参照）。また、今年 8 月に 2 教室（1 棟）が完成予定です。

今後の課題は、残りの 8 教室の再建です。仮設校舎は雨風で損傷や劣化が早いため何度も修復を重ね、いずれは使用に耐えられなくなります。特に雨期に心配です。ネパール政府の新しい耐震基準と建設条件により、1 教室に 100 万ルピー（約 120 万円）の建設費用が必要になり、私達の最初の見積額より高くなりました。一方、当初よりコンクリート製の教室を計画していた 4 教室については、1 教室を 150 万円の計 600 万円で試算していましたが、規格モデルの JICA 方式の方が安くなりました。最終的に見直した見積額は、8 教室とトイレ 1 棟で、合計 990 万円になりました（表 8）。

今年になり、スウェーデン支援の現地非政府団体から、学校再建のために 600 万ルピー（約 660 万円）の援助の提案がありました。被害が甚大だったシンドゥパルチョーク郡で実績のある団体です。300 万ルピー（約 330 万円）の自己資金が用意できれば、残り 8 教室の再建が可能になりますが、まだ援助対象校の候補の一つに挙がっている段階で、正式な契約の話には至っていません。

また、これまでの支援実績からネパール政府が 4 教室は支援してくれると見込んでいますが、今のところ再建の話はありません。これらの状況を踏まえて、今後の動向を見ながら再建支援活動を続けて行こうと考えています。

表8　地震被害による学校施設の修復・再建に関する現状と見積額　（1ネパール・ルピー＝1.2円で試算）

番号	項目	現　状	必要な費用	
			ルピー	日本円
1	4教室の修復 ⇒ 再建に変更	屋根はそのまま利用、ヒビの入った壁の修復が必要 ⇒ 国のガイドラインにより、JICA方式で再建が必要	4,000,000	4,800,000
2	2教室の再建	ドア・窓・床はそのまま利用、崩れた壁の再建が必要 ⇒ 新聞読者2名様のご寄付で、JICA方式で再建中 （1棟）	2017年8月完成予定	
3	1棟のトイレの修復 ⇒ 再建に変更	崩れた壁や床の修復が必要 ⇒ 国の耐震基準強化により再建が必要	170,000	200,000
4	パソコン・印刷機・コピー機の購入	壊れて使用できない機器の購入が必要 ⇒ パソコン等、一部の機器の購入が実現	80,000	100,000
5	4教室の再建	全壊のため、再建（鉄筋コンクリート）が必要 ⇒ 国のガイドラインにより、JICA方式で再建が必要	4,000,000	4,800,000
6	1教室（理科実験室）の再建	全壊のため、再建が必要 ⇒ クラウドファンディングで再建される（現在はパソコン室併用　1棟）	2016年10月完成	
7	1棟のトイレの再建	全壊のため、再建が必要（男女別　各個室2～3） ⇒ 京都中ロータリークラブのご支援で再建される	2016年3月完成	
合計　：　11教室　と　2棟のトイレ　　⇒　8教室　と　1棟のトイレ			**8,250,000**	**9,900,000**
8	4教室の再建	全半壊のため、再建が必要 ⇒ 政府の援助を見込んでいるが、まだ実現なし	政府の援助待ち	

【　必要な教室 17 教室の内訳　】

幼稚園児・1～10 学年生の各授業教室：11 教室

（以下、各 1 教室）パソコン室、保健室、教員室、事務室、数学用教室※、理科室※

※10 学年生のみ、理数系を学ぶ教室が必要なため

＊現在使用中の 3 つの仮設校舎＊

（ 地震に耐えた JICA 支援の校舎 ）
地震後に 2 教室を 4 教室に分けました

（ 廃材で建てられた校舎 ）
現地支援団体フォーカス・ネパールの援助で修復されました

（ 政府とユニセフ支援の竹製の校舎 ）
修復費用に「青葉ふれあいの会」のご支援金を充てさせて頂きました

【 3 】現地の非営利活動法人パル・ピパル奨学財団へのご支援

バル・ピパル奨学財団はネパール政府登録の現地法人で、サッレ村とその周辺の村民のボランティアによって設立されました。私達が支援事業を行う際の現地の受け皿であり、日本からのご寄付金の管理・運営を行っています。

また、複数のご支援者様より、バル・ピパル奨学財団へ直接のご寄付とご支援も頂いています。

① 「京都中ロータリークラブ」ご支援によるトイレ 1 棟の再建

地震の後、「京都中ロータリークラブ（当時会長　岡本靭彦氏）」のロータリアンの皆様より、創立 25 周年記念事業として学校再建ご援助のお話を頂きました。学校施設のトイレは 2 棟とも被災していたため再建をお願いし、2016 年 1 月にクラブから現地のバル・ピパル奨学財団に 1 棟分の再建資金をご寄付頂きました。

2016 年 3 月に完成、石積みをセメントで接合した建物で、1 棟の中に男女別のドアが設けられ、さらに個室に分かれています。おかげ様で、子供達は安心して新しいトイレを利用しています。誠にありがとうございました。

セメントで塗装中

再建したトイレ（正面）

再建したトイレ（側面）

② 賃貸建物の売却による教員の給与支援

2011 年に、将来はなるべく寄付金に頼らずに学校運営を行うことを目的に、「サロン･ド･アサミ」代表の石井氏の個人的なご寄付で、カトマンズ郊外に 100 ㎡の土地を 210 万円で購入、2014 年に 3 階建 9 部屋の建物を 510 万円で建設しました。土地・建物とも現地のパル・ピパル奨学財団の名義とし、全部屋を人に貸してバル・ピパル学校の管理・運営の資金にしていました。

当初は年間約 25 万円の収入で、学用品支援と奨学資金支援の資金面の自立が可能な試算でした。しかし建設完成と同じ時期に、ご支援者様からの教員の給与援助の一部が終了となり、事業計画の中で給与支援が困難になりました。そのため、この賃貸収入を給与支援に充てることになりました。

その後も、物価上昇による昇給問題が大きくなり、どうしたらよいか私達と現地パル・ピパル奨学財団で話し合いが行われました。賃貸住居を何とか財産として残しておきたいところでしたが、家賃の大きな値上げは難しいです。石井氏にご承諾頂いた上で、残念なことではありますが、建物を売却することに決定しました。

建物の相場は、地震で大きな損害はなかったものの多少のヒビが入っていたことや、新しい耐震基準により 3 階部分を壊さなければならない可能性があることで、購入時よりも価値が下がってしまいました。2017 年 1 月に現地バル・ピパル奨学財団と買主が直接契約をし、利息込の価格 650 万ネパールルピー（約 720 万円）を、毎年 65 万ルピーずつ 10 年間かけて支払われることになりました。年 65 万ルピーで、女性教師 1 名 Kanchhi Maya Gurung、男性教師 2 名 Ganga Bahadur Kuwar、Deepak Thapa Magar の計 3 名のほぼ全額の給与支援が可能になりました(4 ページ・表 7)。

石井氏のご援助とこのたびのご理解に感謝しております。氏のご支援を無駄にしないよう、この 10 年間を持ち堪えて次の世代へ繋いで行きたいと考えています。

Kanchhi Maya Gurung

Ganga Bahadur Kuwar

Deepak Thapa Magar

③ 「フィリピンの友を援ける会」による学校運営のご支援

「フィリピンの友を援ける会（代表　石田和子氏）」の皆様には、バル・ピパル学校の土地購入と建設、教員の給与、給食、生徒の制服等の供給、塾運営等、設立から運営まで長年ご支援を頂いてきました。学年数の増加に伴う費用も増え、これまでのご寄付は合計 700 万円以上にもなりました。間もなく、会からのご援助の終了時期を迎えることになります。会の皆様には、長い間大変お世話になりました。地震により困難な状態ではありますが、これまでのご支援に答えられるように、皆で乗り越えて行きたいと思います。誠にありがとうございました。

【 4 】寄付金収入及び正会員数

2015 年度（第 13 期）と 2016 年度（第 14 期）の寄付収入は、下記の「事業収支計算書」の通りです。

第13期事業収支計算書

(2015年1月1日～12月31日)

（単位:円）

科目	決算額
Ⅰ． 収入の部	
1. 入会金･会費収入	
正会員入会金収入	
正会員会費収入	180,000
2. 寄付金収入	
寄付収入	1,265,493
3. その他収入	
利息収入	46
当期収入合計(A)	1,445,539
前期繰越収支差額	188,866
収入合計 (B)	1,634,405
Ⅱ． 支出の部	
1. 事業費	
1. 広報活動事業	10,000
2. 学用品支援事業	120,000
3. 奨学資金支援事業	100,000
4. 識字率向上支援事業	10,000
5. 書籍購入支援事業	10,000
6. 図書館設立支援事業	0
7. 学校運営支援事業	1,050,000
8. 資料の及び刊行事業	0
2. 管理費	
通信費	18,577
印刷費	0
消耗品費	0
雑費	7,400
振替手数料	7,476
交通費	13,290
3. 予備費	0
当期支出合計(C)	1,346,743
当期収支差額(B)-(C)	287,662
次期繰越収支差額	287,662

第14期事業収支計算書

（2016年1月1日～12月31日）

（単位:円）

科目	決算額
Ⅰ． 収入の部	
1. 入会金･会費収入	
正会員入会金収入	
正会員会費収入	60,000
2. 寄付金収入	
寄付収入	1,811,035
3. その他収入	
利息収入	6
当期収入合計(A)	1,871,041
前期繰越収支差額	287,662
収入合計 (B)	2,158,703
Ⅱ． 支出の部	
1. 事業費	
1. 広報活動事業	0
2. 学用品支援事業	130,000
3. 奨学資金支援事業	100,000
4. 識字率向上支援事業	10,000
5. 書籍購入支援事業	10,000
6. 図書館設立支援事業	0
7. 学校運営支援事業	1,800,000
8. 資料の及び刊行事業	0
2･管理費	
通信費	13,162
印刷費	0
消耗品費	0
雑費	11,655
振替手数料	2,844
交通費	49,680
3. 予備費	0
当期支出合計(C)	2,127,341
当期収支差額(B)-(C)	31,362
次期繰越収支差額	31,362

2015 年度は、5 つの団体様と 44 名様より 1,265,493 円のご寄付がありました。そのうち 1 名様の匿名のご寄付がありました。直接お礼申し上げられないため、この場で感謝のご挨拶に代えさせて頂きます。個人の皆様を始め、西村酒店様、一宮よつば会様、サロン・ド・アサミ様、アミナ・コレクション様にはご協力頂き誠にありがとうございました。また、長年活動をご支援して下さる画家の乗田貞勝氏が 2015 年 6 月に講演されたご縁で、主催団体の鹿島市文化連盟の松尾英樹理事長のご好意により、募金のご寄付を頂きました。本当にありがとうございました。

2016 年度は、4 つの団体様と 14 名様より 422,850 円、クラウドファンディングで最終的に集まった 1,388,185 円で合計 1,811,035 円になりました。個人の皆様、西村酒店様、サロン・ド・アサミ様、青葉ふれあいの会、イーズ様、クラウドファンディングに募金下さった皆様、誠にありがとうございました。

正会員数は両年度とも 15 名でした。いつもご支援頂き、心よりお礼申し上げます。

なお、個人の方々のご寄付者リストにつきましては、お名前の公表を希望されない方もいらっしゃるため、掲載を控えさせて頂きます。どうぞ、ご了承下さい。

～　ご支援のお願い　～

この事業報告書の作成にあたり、ネパール全体の復興現状を調べていく中で、国際社会の、特に日本政府の総額 320 億円を超える援助について知りました。

円借款貸付契約による「緊急学校復興事業」（アジア開発銀行との協調融資 140 億円限度）と「緊急住宅復興事業」（世界銀行との協調融資 120 億円限度）の 2 事業の支援、学校改修等に日本信託基金を通じた 18.75 億円の支援、公共施設の再建・修復に 40 億円の無償支援、教育分野の復興に 3 億円の無償支援、民間の寄付と政府資金からなる助成金 2.09 億円をインフラ・学校・住宅再建を行う日本の NGO に給付する支援が行われています。

ネパール国内の政治的事情以外にも、山間部という地理的条件、貧困等の根本的な問題もあり、現場では復興が計画通りに進んでいない側面もありますが、建物再建や防災普及、教育分野面での日本政府の細かい支援内容に心が動かされました。また、学校と教育環境について優先的に考えていることに注目しました。

ユニセフ（国連児童基金）は、授業に集中できない仮設教室での勉強が長引くと教育の質が低下し、その後の進路の幅を狭め、失業者増加等の次世代の貧困を生むことになる、と言います。バル・ピパル奨学基金もこの言葉を忘れずに、学校再建支援と就学支援を続けて行きたいと考えています。

2017 年度（第 15 期）の事業収支計画書は下記の通りです。皆様には既にたくさんのご支援を頂いておりますが、今後とも活動を応援して頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

今回は、事業報告書の作成がずれ込んでしまい、前回と同じく 2015・2016 年度の合併号となりました。2017 年度分につきましては、来春の全国統一試験（SEE）の結果が判り次第、お手元にお送りしたいと思います。学生達も頑張って勉強していますので、良い結果をご報告できれば幸いです。

第15期（平成29年度・2017年度）
事業収支計画書
（平成29年1月1日～平成29年12月31日）

（単位　円）

科目	最終予算額
Ⅰ．　収入の部	
1. 入会金・会費収入	
正会員入会金収入	
正会員会費収入	150,000
2. 寄付金収入	
寄付収入	3,250,000
当期収入合計（A）	3,400,000
前期繰越額	31,362
収入合計　（B）	3,431,362
Ⅱ．　支出の部	
1. 事業費	
1. 広報活動事業	10,000
2. 学用品支援事業	120,000
3. 奨学資金支援事業	100,000
4. 識字率向上支援事業	10,000
5. 書籍購入支援事業	10,000
6. 図書館設立支援事業	0
7. 学校運営支援事業	3,000,000
8. 資料の及び刊行事業	10,000
2・管理費	
通信費	10,000
印刷費	5,000
消耗品費	10,000
雑費	10,000
振替手数料	10,000
交通費	50,000
3. 予備費	20,000
当期支出合計（C）	3,375,000
当期収支差額（B）-（C）	56,362
次期繰越収支差額	56,362

最後になりましたが、皆様のご支援でここまで前進できたことを、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

＜お振込先＞

郵便振替口座：００９３０－４－２６５８４８
口座名称：特定非営利法人バル・ピパル奨学基金

＜ご連絡先＞

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金
ホームページ：http://barpeepal.com
メール：info@barpeepal.com

****　この法人の目的　****

ネパールのバグマティ県ダディン郡在住の住民に対して、奨学資金などの援助を行うことにより、彼らの教育レベルの向上の推進に寄与することです。

2017 年 7 月
特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

地震による被害や支援活動状況等を読売新聞、神奈川新聞、タウンニュースの 3 社様に報道して頂き、より多くの方々に知って頂く機会に恵まれました。誠にありがとうございました。

読売新聞（2016 年 2/29 付）のコラム「私のとっておき」で、法人活動をご紹介頂きました。

The Yomiuri Shimbun 2016.2.29

（第3種郵便物認可）

私のとっておき

快適な住環境 提案したい

東京都市大環境学部准教授

リジャル・ホム・バハドゥル さん46

（横浜市）

母国で収集した調査データ

「皆さん、今日の講義を始めたいと思います」。東京都市大環境学部（横浜市都筑区）の教室に、滑らかな日本語が響いた。准教授として学生たちに環境学を指導。言葉が理解できず、きょとんとした顔をしている留学生には、英語で説明を加えることもある。

ネパールの首都・カトマンズの北西に位置するサッレ村の出身。数年前に電気が通ったばかりの山間部の農村地域だ。小学校時代は毎朝2時間かけてはだしで通学。幼少の頃から橋や道路に興味があり、大学進学を望んだが、経済的に難しかった。高校卒業後に就いたアイスクリーム販売の仕事は、給料が日本円で月約950円しかなく、学費には到底及ばなかった。

そんな頃、ホテルのエレベーターボーイの募集があることを知った。エレベーターは見たこともなかったが、大きな病院で見つけたエレベーターで昇降操作を練習して面接に合格。ほかの仕事と掛け持ちして学費をため、大学の工学部建築学科に合格した。

来日のきっかけは、妻・玲子さんとの出会い。アルバイト先のホテルに宿泊した玲子さんが、記念写真を送ってくれたことで英語での文通が始まり、日本への興味も深まった。1992年に来日し、芝浦工大に留学。奨学金の面接では「なぜ日本なのか」と聞かれ、「日本の建築は美しくて地震に強い」と答えた。卒業後は京都大の大学院でも学んだ。

建物の快適性や伝統建築の環境をテーマに研究している。意匠にも興味があったが、才能の限界を感じ、気候と風土、環境の観点から建築の研究をしようと決めたという。2006年から3年近く、英国の大学に研究員として勤務した際、学生の指導法やデータの収集・分析をさらに深く学んだ。

大切にしているのは、2000年代初頭にネパールの六つの地域で集めたデータだ。農村家庭の囲炉裏で使用するまきの量や、まきによる空気の汚染などを調べた。「ネパール語、英語、日本語が混在する何冊ものノートは、苦労して作った私の宝物。英国に行っている間は妻の実家で大切に保管してもらった」と振り返る。

「室内の空気汚染の問題や、快適さ、燃焼効率を上げるにはどうすれば良いかは、ネパールの生活環境の改善にもつながるテーマ。今後、データを分析し、しっかりとした論文に仕上げたい」と意気込む。愛用の観測機器も宝物の一つだ。

自身の体験から、母国の発展には教育が一番大事と痛感し、03年に大阪でNPO法人「バル・ピパル奨学基金」を設立。現在は理事長を務める。日本人の協力を得て資金を集め、サッレ村で学校を建設・運営したり、道路を造ったりと支援を続けている。

法人名の由来は、ネパールで山間部を行き来する旅人のために、休憩所の目印として植えられている「バル」（男の木）と「ピパル」（女の木）と呼ばれる2本の菩提樹（ぼだいじゅ）だ。長年にわたり旅人を守ってきた菩提樹のように、ネパールの子供たちも人の助けになる人間に育ってほしいという願いを込めた。

ネパールでは昨年の地震で多くの人が亡くなり、建物被害も甚大だ。「どんな仮設住宅が快適か提案したい」。日本で暮らしながらも、故郷のことを忘れたことはない。

（加藤千城）

❶現地調査には欠かせない愛用の計測器を手にするリジャルさん（横浜市都筑区で）❷母国で集めた調査データ。英語、ネパール語、日本語で書かれている

読売新聞（2016 年 3/22 付）で、学校再建のためのクラウドファンディングと枝廣淳子先生の京都マラソンのチャレンジ活動をご紹介頂きました。

読売新聞　The Yomiuri Shimbun　（第3種郵便物認可）
2016.3.22

ネパールの学校 再建を

地震で全半壊、資金募る

東京都市大准教授ら

昨年4月のネパール大地震で全半壊した現地の学校を再建するため、ネパール出身で東京都市大環境学部（横浜市都筑区）准教授のリジャル・ホム・バハドゥルさん(46)が支援を呼びかけている。リジャルさんの活動に共感した環境ジャーナリストで同大教授の枝広淳子さん(53)も、インターネットを通じて資金を募る「クラウドファンディング」を実施中だ。（加藤千城）

上昨年4月の地震で半壊したサツレ村の学校下京都マラソンを完走した枝広さん（右）の応援に駆けつけたリジャルさん（いずれもリジャルさん提供）

リジャルさんはネパールの首都・カトマンズの北西約50キロに位置し、標高1500㍍の山中にあるサツレ村の出身。母国の発展には教育が大切と考え、2003年に、日本でNPO法人「バル・ピパル奨学基金」を設立した。日本人の協力で資金を集めて同村に学校を建設し、運営している。

ネパール大地震では約9000人が亡くなり、多くの建物が倒壊するなどした。石や粘土で建てられた同村の約60軒の民家は大半が被害を受け、村民はトタン屋根やブルーシートを張った仮設小屋で暮らしているという。

日本からの支援で建設された村の学校も被害を受け、教室・教員室全17室のうち、国際協力機構（JICA）の経済支援と技術指導で建てられた2室を除く15室が全半壊した。4室は政府支援による再建を見込んでいるが、残る11室は独自に修復・再建が必要で、全てを再建するには日本円で約900万円かかるという。

村の小中高校生約250人は現在、廃材などを利用した簡易な仮設教室で勉強しており、修復・再建のめどが立たないと、学校閉鎖の可能性もある。リジャルさんは当面、40人が勉強できるコンクリート製の教室1室を建設したいと考えており、そのためには日本円で約150万円が必要だという。

リジャルさんの活動を通じて村の実情を知った枝広さんは、2月21日に開催された京都マラソンに参加し、150万円の募金を呼びかけた。枝広さんは過去にも3回、フルマラソンでのチャリティーランを実施し、完走しているという。

「走るのが大好きなので、大好きなことを通して、寄付金を集め、教室が建てられたら幸せだ」と話す。

リジャルさんは「目標額の半分は集まったが、まだ足りない。現地は6月には雨期に入る。それまでにコンクリート製の教室を建てたい。ぜひ協力してほしい」と訴えている。

詳細は「バル・ピパル奨学基金」のホームページ(http://barpeepal.com/)、クラウドファンディングのサイト(http://japangiving.jp/c/13396)。

神奈川新聞（2016 年 4/26 付）で、クラウドファンディング等により教室 1 室の再建資金が集まったことをご紹介頂きました。

川　新　聞　2016.4.26　第3種郵便物認可　神奈川新聞 The Kanagawa Shimbun

ネパール大地震1年

故郷の学校 再建を

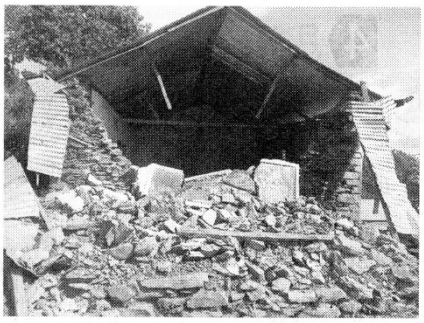
ネット資金調達、耐震化も

大学教員 リジャルさん奔走

約9千人が犠牲になり、25日で発生から1年となったネパール大地震で、倒壊した学びやを再建する横浜発のプロジェクトが動きだす。旗を振るのは、東京都市大環境学部（横浜市都筑区）准教授で同国籍のリジャル・ホム・バハドゥルさん(46)。廃材を使った仮設の教室で不便を強いられている子どもたちのために資金を集め、雨期となる6月を前に第1弾の教室を完成させる計画だ。

（渡辺　渉）

＝本記3面に



壁などが崩れ落ちたバル・ピパル高校の教室（リジャルさん提供）

支援するのは、自身が生まれ育った標高約1500㍍のサッレ村にあるバル・ピパル高校。学校のなかった村で子どもたちに学ぶ場を提供しようと、日本の大学に進んだリジャルさんが支援を呼び掛けて造った10年制の学校だ。小学生から高校生まで約250人が学んでいる。

震源地に比較的近い同校では、17ある教室・職員室のうち15室が全半壊。一方で、国際協力機構（JICA）の支援で建てられた二つの教室と、鉄筋コンクリートが採用されていた図書館はほぼ無傷だった。

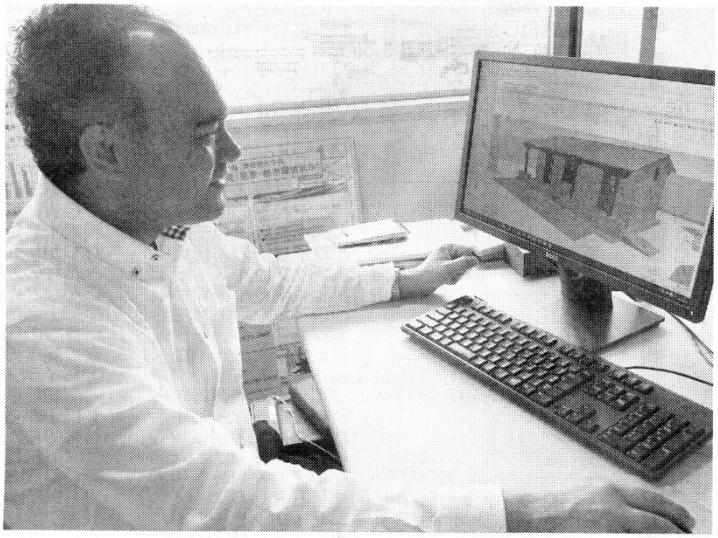
昨年5月に村を訪ね、同校の苦境を知ったリジャルさんはテントなどを提供。夏以降に廃材や竹を使った仮設教室が造られたが、長期の使用には耐えられない状況だ。

このため、リジャルさんが学用品などの支援のため日本で設立していたNPO法人「バル・ピパル奨学基金」の試みとして、インターネット経由のクラウドファンディングで再建資金を調達。目標の150万円に届かなかったものの、大学の教育仲間も支援し、期限の今年3月末までに約110万円が集まった。NPOへの寄付なども含め、約140万円を現地に提供、首都カトマンズで建築を学ぶ学生や卒業生らのグループの協力を得て、第1弾の教室を建設する。

「地震の被害が深刻なので国にすべての教室を再建する余裕はなく、放置すれば学校がつぶれかねない」との危機感を胸に奔走するリジャルさん。徐々に固まってきた設計案にも助言を重ね、「以前の教室は粘土で石を貼り合わせていたが、地震ではそれが崩れ落ちた。新たに建てる教室はセメントにし、鉄筋コンクリも一部に使いたい」と、揺れに耐えられる構造にするつもりだ。

折しも発生した熊本地震の被災地にも心を寄せ、「避難している人たちが一日も早く元の生活に戻れるよう祈っている」と話すリジャルさんは、「ネパールでの学校の再建はまだ始まったばかり。時間も資金もさらに必要」と今後の長い道のりを見据えている。

バル・ピパル奨学基金は引き続き、学校再建への寄付を求めている。問い合わせは、☎045（620）2962か、メール（info@barpeepal.com）で。



再建する教室の設計案をチェックするリジャルさん＝東京都市大横浜キャンパス

タウンニュース・都筑区版（2016 年 5/5 付）で、学校再建支援活動と、クラウドファンディング等により教室 1 室の再建が始まったことをご紹介頂きました。

ネパール人
都市大教員

母国の学校再建へ

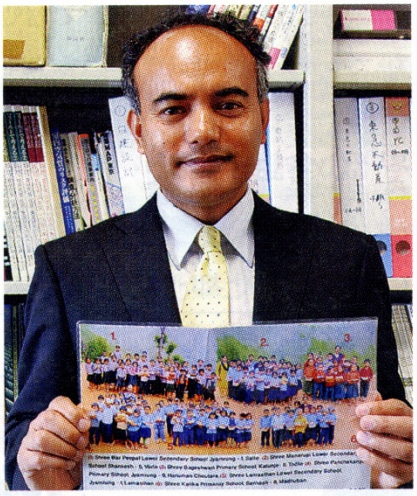
資金募り5月完成に目途

Town News, Tsuzuki-Ku
No. 917, 2016.5.5

昨年4月のネパール地震で被災した母国の学校再建に向け、東京都市大学（牛久保西）の准教授、リジャル・ホム・バハドゥルさん（46）が国内外で活動している。今年3月、校舎1棟分の建設にかかる目標額をほぼ達成。雨期になる前の5月中の建て替えを目指す。

地震で全半壊

リジャルさんはネパールの首都カトマンズの北西約50キロにあるサッレ村出身。24歳の頃に芝浦工業大学へ留学、6年前から東京都市大の環境学部で教鞭をとっている。経済的な問題などで就学・進学を諦める子どもが多い出身地の教育環境を整えようと、03年、NPO法人「バル・ピパル奨学基金」を設立。寄付金で建設したバル・ピパル学校の運営や、奨学金の支援を通じ、教育環境の改善を図っていた。



「子ども達に勉強の環境を」とリジャルさん

その最中、昨年4月25日に地震が発生。村の多くの家屋は石と粘土で建てられており、地震を想定していない構造のため、ほとんどが半壊以上の被害を受けた。5歳～16歳の約230人が通うバル・ピパル学校の校舎も5棟17室のうち、2室は使用可能な状態だったが、残り15室は全半壊の甚大な被害を受けた。

これらの教室では6月から9月の雨期を乗り越えることは難しいため、リジャルさんは今年1月から校舎1棟の再建に向け、寄付の呼びかけを開始。ネット上で資金を募る「クラウドファンディング」を行った。また、同大学教授の枝廣淳子さんもこの活動に賛同。チャリティーマラソンで寄付を呼びかけた。その他、京都大学大学院在学時から親交のある京都中ロータリークラブなどの協力もあり、3月末に目標額の150万円を概ね達成。これからいよいよ建設作業に移る。

継続支援呼びかけ

リジャルさんは「沢山の方のご協力で目標にほぼ達することができました。何とか6月の雨期までに間に合わせたい」と話す。この教室は学年問わず使えるよう、パソコンルームと理科実験室になる予定だ。「今回建てなおすのは1棟だけ。まだ始まったばかりです」とリジャルさんは気を引き締める。全棟再建には計約900万円が必要。引き続き寄付を受け付ける。同NPO法人HP URL http://barpeepal.com/

ひびの入った校舎（2016年4月撮影）＝リジャルさん提供

読売新聞（2016 年 12/24 付）で、クラウドファンディング等により教室 1 室が再建されたことや、今後の学校再建活動方針をご紹介頂きました。

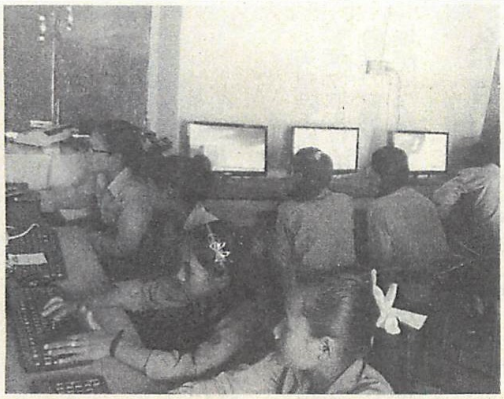
読売新聞 The Yomiuri Shimbun Page 31 2016.12.24 第3種郵便物認可）

ネパール 校舎1棟再建

全半壊 日本人ら支援

あと10教室 協力を

東京都市大准教授



日本からの資金で再建された校舎で学ぶ生徒ら（リジャルさん提供）

2015年4月のネパール大地震で全半壊した現地の学校を再建するため、ネパール出身で東京都市大環境学部（横浜市都筑区）准教授のリジャル・ホム・バハドゥルさん(47)らが呼びかけていた支援運動が実を結び、耐震補強された校舎が1棟建設された。リジャルさんは日本人らの善意に感謝しつつ、「震災前の状態にするにはあと約750万円が必要。引き続き協力してほしい」と訴えている。（加藤千城）

リジャルさん

リジャルさんはネパールの首都・カトマンズの北西約50㌔に位置し、標高1500㍍の山中にあるサッレ村の出身。母国の教育向上のため、2003年にNPO法人「バル・ピパル奨学基金」を設立し、日本で資金を集めて同村で学校を建設・運営している。

大地震では、サッレ村にある約60軒の民家の大半が被災し、村民はトタン屋根やブルーシートを張った仮設小屋で暮らす。日本からの支援で建設された村の学校も被害を受け、7棟計17室のうち15室が全半壊。このうち4室は政府支援による再建が見込まれるが、残る11室は独自に修復・再建が必要となった。小中高校生約250人は今も、廃材を利用した簡易な仮設教室などで勉強している。

リジャルさんの支援活動を知って共感し、協力を申し出たのが環境ジャーナリストで同大教授の枝広淳子さん(54)。2月にフルマラソンでのチャリティーランを実施し、インターネットを通じて資金を募る「クラウドファンディング」を行うと、新聞報道で知った人の寄付も合わせ約140万円が集まった。

校舎の設計には、リジャルさんの母校・国立トリブバン大の卒業生や学生が参加。基礎からしっかり造り直し、はりが鉄筋でコンクリート造りの校舎が今年秋に1棟（1室）完成した。校舎では現在、パソコンの授業や理科の実験が行われているという。

枝広さんは「これはゴールではなくスタート。大地震の前に戻すには、あと10教室を再建しなければいけない。日本からのクリスマスプレゼント・お年玉として、支援金を送ってくれる方がいっぱいいたらうれしい」と話している。支援活動の詳細は同NPOのホームページ（http://barpeepal.com/）で。支援の連絡はリジャルさん（090・8569・6106）。

生徒らからコメント

「たくさん勉強したい」……

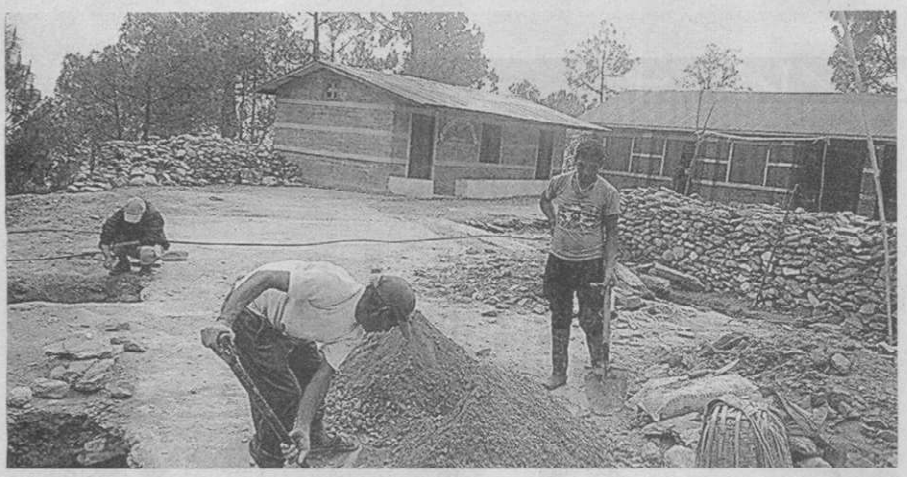
リジャルさんの元にはこれまでに、校舎の建設報告や再建後の写真とともに、教師や生徒ら44人分のアンケートが届いている。中学3年女子のサンティ・グルングさんは「地震に強い建物が完成し、とても喜んでいる。ただ、今も仮設校舎を使って勉強するため雨期には雨が入ってくる。ほかの校舎も同じ方法で建ててほしい」とし、高校1年男子のスザン・タパ・マガルさんは「この建物でたくさん勉強したい。被災者にも耐震補強された家の造り方を教えてほしい」とコメントしている。

読売新聞（2017 年 4/22 付）で、学校再建支援活動や新たに 2 教室が再建されることをご紹介頂きました。

The Yomiuri Shimbun
（第3種郵便物認可）
2017年(平成29年)4月22日（土曜日）
読書

ネパール校舎再建 新たに

大地震から2年 昨秋に続いて



雨期までに建設するため工事が始まった現地（リジャルさん提供）

呼び掛けの教授「日本人に感謝」

ネパール出身で東京都市大環境学部（横浜市都筑区）教授のリジャル・ホム・バハドゥルさん(47)が取り組んでいるネパール大地震の被災地支援が実を結び、新たに学校の校舎1棟（2教室）が建設される。2015年4月25日の地震発生から間もなく2年。リジャルさんは「日本人の善意に感謝している」と話している。（加藤千城）

リジャルさんの出身地・サッレ村では、約60軒の民家の大半が被災し、学校も7棟・計17室のうち、15室が全半壊した。4室は政府支援を受ける見通しだが、11室は自力での修復・再建が必要となった。リジャルさんが日本で支援を呼び掛けたところ、約140万円が集まり、昨秋には1棟（1教室）が完成した。

その後も支援は広がり、寄付は260万円を超えた。リジャルさんによると、はりが鉄筋でコンクリート造りの1棟（2教室）の建設を予定し、雨期を迎える6月までに完成する見通し。

寄付した相模原市の歯科医奥村寛道さん(69)は「故郷のために何かをしたいという思いや、自立できる村にしたいという夢に共感した」と話す。リジャルさんは「震災前の状態にするにはまだ支援が必要。協力してほしい」と呼び掛けている。

支援活動の詳細はNPO法人「バル・ピパル奨学基金」のホームページ（http://barpeepal.com/）、連絡はリジャルさん（090・8569・6106）へ。

神奈川新聞（2017 年 4/26 付）で、法人活動や、今後の学校再建支援についてご紹介頂きました。

川新聞 The Kanagawa Shimbun 第3種郵便物認可 2017.4.26

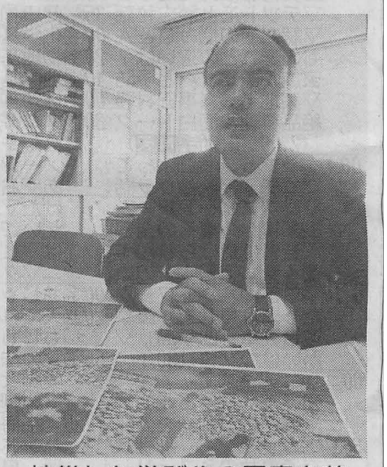
学びや復興の象徴に

ネパール地震から2年

東京都市大教授

再建支援呼び掛け

学びやを復興のシンボルに―。2年前に故郷のネパールを襲った大地震で被災した小さな村の学校を再建するため、東京都市大環境学部（横浜市都筑区）のリジャル・ホム・バハドゥル教授（47）が奔走している。同国政府の支援が滞り、海外からの寄付などに頼らざるを得ない状況だからだ。日本で集めた資金で平屋建ての教室が昨秋にようやく完成したが、風雨にさらされる仮設の教室で今も多くの生徒が学び、被災前の教育環境には程遠い。リジャル教授は「頑丈な教室を増やし、災害時には村人が避難できるようにしたい」と青写真を描く。（渡辺　渉）



被災した学びやの写真を前に、故郷への思いを語るリジャル教授＝横浜市都筑区の東京都市大横浜キャンパス

ネパール大地震は2015年4月25日に発生し、周辺国も含め約9千人が犠牲になった。首都カトマンズに近く、リジャル教授が生まれ育ったサッレ村（標高約1500㍍）の学校は壊滅的な被害を受け、17ある教室のうち15教室が全半壊した。

心を痛めたリジャル教授はまず1教室の再建をと、インターネット上で資金を募るクラウドファンディングで資金を調達。寄付や募金も寄せられ、集まった約140万円を現地に提供した。

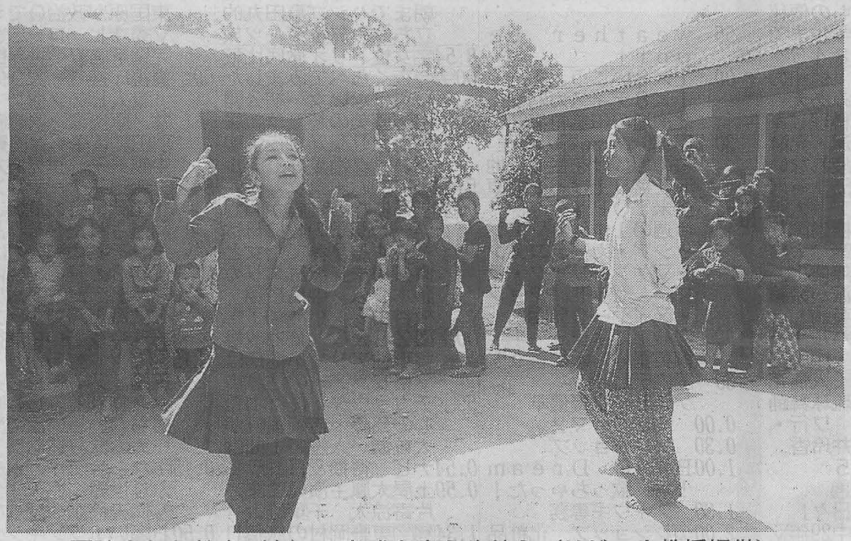
カトマンズで建築を学ぶ大学生グループの協力で昨年10月に完成した待望の1教室は、構造は従来と同じ石積みながら、地震に耐えた図書室の構造を参考に接合部を粘土からセメントに変え、鉄筋のはりや基礎を加えることで強度を高めた。パソコンや理科の授業で使用しているが、「さらに10教室程度の再建が必要」とリジャル教授。現在通っている生徒約200人の多くが学んでいる仮設の教室は、廃材も材料に地震後に建てられたため傷みが激しく、「隣の教室の声が聞こえてきて環境も悪い」ためだ。

しかし改善の道筋は見えておらず、当初は政府が対応するとされた一部教室の再建は、今も果たされぬまま。設備の故障で村への電力供給が途絶える中、相模原市や真鶴町の有志らの寄付で着工された次の教室も建設の中断を余儀なくされており、作業を進めることが困難な雨期が6月に迫ってきた。「現地の支援団体から、必要な資金（約800万円）の半分をこちらが負担できるのであれば、8教室程度の再建を支援する用意がある、との新たな提案を受けている」ものの、資金確保のめどは立っていない。

地震から2年を経て、村人の生活再建にも格差が目立ち始め、「資金があり、いち早く住まいを建て直した人がいる一方、小屋などでしのいでいる人も少なくない」とリジャル教授。「ただ、耐震性のある教室を建てたことで、『家も同じように強くする必要があることを学んだ』といった声が生徒や教師の間から上がっている。村人の意識を変えるきっかけにもなった教室の再建をさらに進めていきたい」と、日本発の支援に対する協力を引き続き求めている。

◇

学校再建への寄付は、NPO法人「バル・ピパル奨学基金」（郵便振替口座00930―4―26584）で受け付けている。問い合わせは、同法人の代表でもあるリジャル教授☎090（8569）6106。



再建された教室（左）の完成を喜ぶ生徒ら（リジャル教授提供）

以上、最後までお読み頂き、誠にありがとうございました。

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金